

## 平成30年度 英語科研修会 報告書

1. 目標 「グローバル人材育成のための英語教育プログラム」
2. 日時 平成31年1月24日(木) 13:00~15:30
3. 会場 静岡県私学会館 5階 大会議室  
〒420-0853 静岡市葵区追手町9番26号
4. 参加者 41名
5. 開会式 13:15~13:20  
挨拶及び講師紹介 英語科専門部会 部会長 谷野純夫先生
6. 内容  
【研修I】 所管事項「これからの県の英語教育」  
静岡県総合教育センター 総合支援部 高等学校支援課 高校第1班  
教育主査(指導主事) 塚本裕之先生

<新学習指導要領に基づいた英語教育改革>

- ①外国語科改訂の趣旨及び要点
  - ・社会のグローバル化の急速な進展ー訪日外国人旅行者数の激増
  - ・一部の業種や職種だけでなく、生活のあらゆる場面で少しでもコミュニケーションが取れる力が必要
  - ・業種や職種によってはAI(人工知能)により代替可能ーわれわれ教師の役割は
  - ・課題→小中高の学校種間の接続が十分とは言えず、言語活動が適切に行われていない  
具体例として、小学校での学びを紹介
  - ・今後、年々英語の授業時間が増えるため、各学校はそれに対応した授業を行うべき
  - ・今回の改訂の重要ポイント=何を、どのように身に付けさせるか?
- ②外国語科の目標
  - ・コミュニケーションを図る資質・能力の育成
  - ・小中高の目標を比較するとほぼ同様→学校種間の接続をさせたい
- ③新しい科目の構成
  - ・コミュニケーション英語→英語コミュニケーション  
(英語コミュニケーションIは必修科目)
  - ・英語表現→論理・表現
- ④科目の目標と授業改善の視点
  - ・CEFRの5つの領域で目標設定(4技能ではなく、5つの領域)
  - ・5つの領域=聞くこと Listening+読むこと Reading=受容  
話すこと[やり取り] Interaction=やり取り  
話すこと[発表] Presentation+書くこと Writing=産出
  - ・CAN-DO リストはCEFRを参考に
  - ・指導案では複数の領域を合わせた統合的な言語活動を明示する→技能統合
  - ・英語コミュニケーションIは5領域それぞれの目標を設定する
  - ・「支援」は日本語ではなく、学習の過程で考えられる様々な配慮のこと

「子どもたち一人一人が未来の作り手になれるように」

【研修Ⅱ】講話「スピーチ指導」

常葉大学 外国語学部 教授 佐野富士子先生

<スピーチは第2言語の習得に大きな役割を果たす>

①スピーチはコミュニケーションか

- ・ランダムハウスの定義「**a form of communication**」
- ・言語活動としてのスピーチは思考力・判断力・表現力を伸ばす
- ・スピーチ作成のプロセスは外国語習得のプロセスと同様
- ・スピーチを通じた統合的学力の育成に繋がる

②スピーチ作成の実践例

- ・トピックを決める→原稿作成に着手する→ドラフトを練り直し、原稿を完成
- ・原稿を音声でチェック→パフォーマンスとして完成

③スピーチの教育的効果

- ・明示的知識 **explicit knowledge** ⇔ 感覚的知識 **implicit knowledge**
- ・input した知識を output することを繰り返して、**implicit knowledge** を増やしたい

④スピーチの評価

- ・伸ばしたい力重点を置いて評価する
- ・**Rubric** を使用して公正な評価をおこなう

⑤高校でやっていただきたいこと

- ・**communication** のための英語をやっていただきたい。今後、どういう職種に就いても、英語の力が必要とされる。英語は生活の一部となっている。

記録：山田由紀子（沼津中央高等学校）